

668353

中南工业大学



圖書館藏

王文斌 等 编

日语中级课本

高等教育出版社



日语中级课本

王文斌 等编

高等教育出版社

内 容 提 要

本书为具有一定日语水平的读者而编，全部内容接续华南工学院陈衍光等修订的日语（第二外语）教材，可供学过该书的同志以及其他掌握日语基础语法知识、一定数量词汇的读者用做提高性教材。

本书由王文斌等同志编选和译注，田世昌同志审阅。

责任编辑 尹学义

日语中级课本

王文斌 等编

*

高等教育出版社出版

新华书店北京发行所发行

长春新华印刷厂印装

*

开本 850×1168 1/32 印张 11.75 字数 284 000

1987年9月第1版 1987年9月第1次印刷

印数 00 001—4 240

书号 9010·0332 定价 2.25 元

前 言

本书文章选自青柳雅计、金田一京助等编著、日本文化厅文化部国语课出版的《外国人のための日本語読本》和日本中学《国語》等书。

选文内容包括文化、社会、理工等方面，均系日本名家作品，内容健康、语言规范、文字活泼、通俗生动，适合学生阅读。

本书编写的起点以学过华南工学院陈衍光等修订的高等学校教材《日语》(第二外语用)〔第二版〕为准，并全部遵从该书体例，词汇严格接续该书；因此，本书既可供高等院校学习日语的广大师生用做阅读教材，又可供自学日语的广大科技人员、其他读者作为提高性课本。

本书参照周炎辉、顾明耀主编的《理工科日语分级读物》的体例进行译注。译文在不影响汉语表达习惯的前提下尽量直译，以供学习者对照参考。

本书共选入33篇文章。每篇文章后均附有注释、词汇两项内容。所选文章的全部译文均附于书末。凡高等学校教材《日语》(第二外语用)〔第二版〕中没有出现的地名、国名、人名、事件名、节日名称等以及词组、惯用型、重点语法、句法分析、构词分析、助动词、接头词、接尾词等均进行了注释，其它则列入“词汇”中。

对日语汉字的使用，经过反复实践和讨论，做了如下规定：

1. 以金田一京助等编《新明解国语辞典》(第三版)为主要依据；
2. 为适应中国人学习日语的特点，尽量多使用些汉字；
3. 参考国内教学现状和目前日语的现实情况，凡使用汉字有争议之处，均

经讨论后决定，力求前后统一，全书一致。例如：原书中的“へんとうせんえん”，“けた”等，我们均改用汉字“扁桃腺炎”，“衍”标记，尽管“扁”，“腺”二字是“非常用汉字”，但为便于中国学生阅读和理解，经过讨论后还是改用汉字标记了。又如：“色色”，“様様”，“奇麗”，“沢山”等词所用的汉字虽是“常用汉字”，但我们考虑到日语的现实情况，则分别改用假名“いろいろ”，“さまざま”，“きれい”，“たくさん”标记。但原文中的实词无论用假名还是汉字标记，在注释和词汇中我们一律标出相应的汉字或假名。另如“こと”，“もの”这类词，何时写成假名“こと”，“もの”，何时写成汉字“事”，“物、者”也经反复讨论做了统一处理，但由于目前日本书刊对“こと”，“もの”之类的使用尚不统一，加之我们水平有限，倘有误用之处，还望读者批评指正。

本书由大连工学院外语系日语教研室王文斌、侯永桐、臧魁、刘桂云、白元昌、樱井静江、金甲年、邵先泌、夏重学、陶化强、周心萍、章健克、孙希忠等译注。全书由王文斌、侯永桐、臧魁编选并统一整理加工，由田世昌审校。

我们水平有限，加之时间仓促，在编译方面一定会有缺点和不足之处，恳请读者批评指正。

编译者

1985年3月

目 次

1. パン	1
2. 寺子屋	4
3. 貝塚	7
4. 年中行事と信仰	10
5. 東海道	15
6. 京都で	21
7. つる	25
8. 生産の仕組	34
9. 光の速さ	38
10. におい	42
11. コンパスと定木だけの数学	48
12. 生きていた化石	55
13. ゼロの発見	63
14. 煙の行方	73
15. 物言いについて	81
16. 科学的な物の考え方（一）	89
17. 科学的な物の考え方（二）	99
18. 命を懸けて	109
19. 花を追う人人	122
20. 天下一の馬	130
21. 古いものと新しいもの	146
22. 四季	156
23. 日本語と封建性	169

24. 心の小道	180
25. 人間を知るために	193
26. 読書と人間	199
27. 地震予知の意味	207
28. 自然と人間	214
29. 情報時代と情報公害	223
30. ひばりの子	232
31. ゾイデル海の水防とローレンツ	245
32. 創造性の尊重	257
33. 読者の世界	264
参考译文	281

1. パン

日本に初めてパンが伝えられたのは今から400年ほど前のことでした。そのころまでの日本人は、「外国人」といえば朝鮮人か中国人ぐらいしか知りませんでした。そのころになって始めてヨーロッパの国の人が日本へやって来ました。

パンはそのヨーロッパから来たポルトガル人が伝えたものなのです。²

ところが、そのころの日本にはパンの原料になる小麦がなかったのです。日本人はパンを作ることができませんでした。

それから300年ほどあとの明治時代³になってから⁴は、いろいろな国からたくさんの外国人が日本へ来るようになって、パンを売る店もぼつぼつ出来てきました。けれども、そのころでもまだパンで食事をする日本人はほとんどありませんでした。それからしばらくたってから、朝はパンと牛乳、昼と夜はご飯というように、一日に一回はパンを食べる人も出てきました。

ところで、今のようにパン食をする人が増えたのは、わずかに20年ほど前からのことです。戦争で米の取れ高が少なくなったこと、栄養についての知識が豊かになったこと、牛乳やチーズや肉などをたくさん取るようになったことなどが、その主な原因だと言われています。⁷

また昭和⁸22年に小学校で学校給食が始まったこともパン食を広める大きな原因になりました。

注 释

- 1 やってくる (やってくる)〔自力〕来, (从对面) 走来。
- 2 “パンは…ポルトガル人が伝えたものなのだ。”这里的“ものだ”表示“回忆”或“断定”;其中“だ”因后续形式体言“の”而变为“な”。“のだ”加强对事实叙述的语气。
- 3 明治時代 (めいじじだい)〔名〕(日本) 明治时代 (1868~1912)。
- 4 (动词连用形)てから〔惯用型〕…之后, …“になってから”到了…以后。春になってからだんだん暖かくなる。到了春天以后, (天气) 就逐渐暖和起来。
- 5 (体言の、用言连体形) ようになる〔惯用型〕表示状态的转变, 可译为: 变得…, 已经…等, 也可灵活翻译或不译。这里的“…ようになって”是其连接式, 作状语, 修饰后边的主句“…店も~出来てきた”。
- 6 (体言) について〔惯用型〕关于…, 就…。 “…について”后可加“の”作定语。
- 7 (体言、用言终止形) と言われている〔惯用型〕(被) 认为…, 一般认为…, 据说…。句中“…こと, ~こと, …ことなどが”是主语, “原因だ”是谓语。修饰三个“こと”的句子都是从句, 因为“こと”是形式体言, 在句中作主语, 所以三个从句都是主语从句。
- 8 “昭和”为日本国现在的年号。把昭和换算为公元时, 加1925即可。如: 昭和22年为公元 (22+1925=) 1947年。

词 汇

- 1 パン(〔葡〕Pa o)〔名〕面包
- 2 ヨーロッパ (Europe)〔名〕欧洲
- 3 ポルトガル人 (Portugalじん)〔名〕葡萄牙人
- 4 売る (うる)〔他五〕卖, 出售
- 5 ぼつぼつ〔副〕渐渐地, 逐渐地, 一点一点地
- 6 食事 (しょくじ)〔名・自サ〕饭, 饮食, 饮食, 用饭, 进餐。食事をする用饭, 进餐

- 7 しばらく〔副〕不久，一会儿；许多，好久
- 8 たつ（経つ）〔自五〕经过。たってから经过…之后
- 9 牛乳（ぎゅうにゅう）〔名〕牛奶
- 10 パン食（パンしょく）〔名〕以面包为主食
- 11 米（こめ）〔名〕稻米，大米
- 12 取れ高（とれだか）〔名〕（谷物、鱼类等的）产量，收获量；捕获量
- 13 チーズ（cheese）〔名〕奶酪，干酪
- 14 給食（きゅうしょく）〔名・自サ〕（日本）的学校、公司、工厂向学生、职员、工人等）供应伙食，供餐（制）
- 15 広める（ひろめる）〔他下一〕推广；传播

2. 寺子屋¹

1603年から1867年までを江戸時代^{えどじだい}と言います。将軍^{じやうぐん}が江戸^{いま とうきやう}（今の東京）にいて、日本全体^{せんたい}を治めていました。²、そのころ武士^{ぶし}の子供^{こども}は藩^{はん}の学校^{がくもん}などで勉強^{べんきやう}していましたが、町人^{ちやうにん}の子供はどんな所^{ところ}で勉強したのでしょうか。

それは寺子屋^{てらこや}という所です。寺子屋^{いぜん}というのは子供に勉強^{てら きやういく}させる所^{いぜん}です。江戸時代以前^{いぜん}は、お寺で教育^{きやういく}をしました。そこで勉強する子供を「寺子」と言いました。それから「寺子屋^な」という名^なが出来たのです。

寺子屋^{せんせい}の先生^{がくもん}は学問のある^{そう}武士^{いしや}・僧^{いしや}・医者^{いしや}・町人^{いしや}などでした。たいいていの寺子屋は先生が一人しかいませんでした³。生徒^{せいと}の数^{かず}は、多くても^{おほ}二^に、三十人^{さんじゆうにん}でした。

生徒^{しやうせい}は6歳^{ろくさい}から14歳^{じゆうしん}くらいまでの、町人などの子供です。子供たちは近く^{ちか}の寺子屋へ行って、読み・書き・そろばんなどを習^{なら}いました。それも、あまり難^{むずか}しいことではなく⁴、毎日^{まいにち}の生活^{くわく}に役^{やく}に立^たつ⁵ことが多^{おほ}かつ⁶たようです。

江戸時代になって、お寺以外に寺子屋が出来たのは、教育^{い がい}を受けたい人が多^{おほ}くなって、勉強する所^{ひつよう}がたくさん必要^{ひつよう}になったからです。それで、寺子屋の数^{かず}はどんどん増^ふえました。江戸時代^{おほ}の終^{おほ}わりころには大阪^{おおさか}に二^に千五^ご百^{ひゃく}以上^{いじゆう}、江戸^{せん}に千^{せん}ぐらい、全^{ぜん}国^{こく}では一^{いち}万^{まん}以上^{いじゆう}の⁷寺子屋^{てらこや}がありました。それでも、日本人^{にっぽんじん}全^{ぜん}体^{たい}の中^{なか}では、教育^{きやういく}を受ける人はたいへん少^{すく}なかつたのです。そのころ江戸には百^{ひゃく}万人^{まんにん}くらい⁸の人が住^すんでいたのに、生徒^{せいと}の数^{かず}が二、三十人の寺子屋^{てらこや}がわづか千^{せん}しかありませんでした。¹²

身分や職業みぶん しよくぎように関係かんけいなく¹³，すべての人が教育を受けられる¹⁴
ようになったのは明治時代めいじになってからのことです。

注 释

- 1 寺子屋（てらこや）〔名〕日本江戸时代的一种私塾。起初是在寺院里办的，所以叫做“寺子屋”。“寺子”指的是在这种私塾里读书的孩子。
- 2 本句是简单句。主语是“将軍が”，谓语是“治めていた”。其前“いて”是“いる”的连接式，“江戸にいて”作状语。
- 3 藩（はん）〔名〕诸侯领地（江戸时代日本全国有200多个大小不等的诸侯领地，或叫作诸侯国）。
- 4 “子供に勉強させる”让孩子学习。“勉強させる”是“勉強する”的使役式。
- 5 “学問のある”系定语从句。“の”代替了主格助词“が”，译为：有学问的…。
- 6 “一人しかいなかった”只有一个人。是“一人しかいない”的过去式。
- 7 多くても（おおくても）〔组〕至多，最多。
- 8 （体言の、用言连体形）ことではない〔惯用型〕并非…，并不是…。“ことではなく”是其连用形中顿法。
- 9 役に立つ（やくにたつ）〔组〕有用，有效。
- 10 （用言连体形）ことが多い〔惯用型〕往往…，大多数…，…很多。“多かった”是“多い”的过去式。
- 11 “一万以上の…”一万以上。其中“の”为格助词，此处意同“である”。
- 12 这是个主从复合句。从句是用接续助词“のに”连接的，表示前后两句的内容不相适应，译为：尽管…却～。主句中主语是“寺子屋が”，谓语是“干しかなかった”。
- 13 …に関係なく〔组〕不拘，不管。
- 14 “受けられる”可以接受，能接受。是“受ける”的可能式。

词 汇

- 1 将軍(しょうぐん)〔名〕将军
- 2 全体(ぜんたい)〔名〕全身; 全体。整体。日本全体。整个日本, 全日本
- 3 治める(おさめる)〔他下一〕治理; 统治
- 4 町人(ちょうにん)〔名〕(日本江戸时代的)商人、手艺人
- 5 生徒(せいと)〔名〕(中小学的)学生
- 6 それで〔接〕所以, 因此
- 7 どんどん〔副〕接连不断地, 迅速地
- 8 それでも〔接〕尽管如此
- 9 身分(みぶん)〔名〕身分, 地位
- 10 職業(しよくぎょう)〔名〕职业

3. 貝塚

貝塚を掘ると、白っぽくなった貝殻がたくさん出てきます。貝殻ばかりでなく、動物や魚の骨・土器・石器・骨で作った道具など、大昔の人人が使っていた物も、いろいろ見付けることができます。ですから、貝塚の様子を詳しく調べると、大昔の人人がどんな暮らしをしていたのか、よく分かります。

貝塚は大昔の人人のごみ捨て場として出来た物です。

大昔の人人は、初め、野山を駆け回って獣を殺したり、木の実を集めたり、海辺で魚や貝を取ったりして食べていました。ことに海辺の人人にとって、貝はとても都合のよい食べ物でした。女や子供でも拾えるし、火で焼けば、簡単に食べられたからです。海辺の人人は今とは比べ物にならないほど、たくさんの貝を食べていたと思われます。

人人は、貝を食べたあと、貝殻をいつも決った所に捨てました。壊れたり、いらなくなったりした土器や石器などの道具も、やはりここに捨てました。また、食べ残した肉や骨・果物の種などもここへ捨てたことでしょう。それが、長い間にはほとんど腐ってしまい、貝殻のような腐りにくい物だけが残って、今のような貝塚が出来たのです。

貝塚は、昔の海辺に出来た物ですが、今はもう海岸ではなくなっている所もあります。つまり、今は陸地のずっと奥のほうにあっても、大昔にはそこまで海だったのです。ですから、貝塚は大昔の人人の生活ばかりでなく、そのころの土地の様子を知るのにもたいへん役に立つのです。

注 释

- 1 白っぽくなった 是“白っぽくなる”的过去式连体形，做“貝殻”的定语。“白っぽく”是“白っぽい”的连用形。“っぽい”〔接尾〕（接名词、形容词词干及动词连用形后构成形容词）表示具有…倾向。忘れっぽい 健忘的；水っぽい 水分大。
- 2 本句是主从复合句。主句主语省略，谓语是“見付けることができる”。句中为敬体。其实语是“貝殻…物も”。“物”前“動物や…大昔の人人が使っていた”是其定语从句。“…道具など”是其后“物”的具体内容。又“動物や…作った”是“道具”的定语，“骨で”是补语，“動物や魚の”是其后“骨”的定语。
- 3 “都合のよい”为定语从句，用“の”代替了主格助词“が”。
- 4 食べられた 这里是“食べる”的可能式的过去式。
- 5 （体言）にならない（ほど）〔惯用型〕远非…所比。“…今とは比べ物にならないほど”中“今とは”由体言“今”、补格助词“と”与提示助词“は”构成，作“なる”的补语。“比べ物”意为：可以相比的东西，不相上下的东西，它后续助词“に”，作自动词“なる”否定式“ならない”的补语。“ほど”为副助词，表示程度。此部分译为：“这非现在所能比拟”。
- 6 “いらなくなっ”是“いらなくなる”的连用形，因后接助词“たり”而用此形。“いらなく”是“いらない”的连用形，而“いらない”是“いる（要る）”〔自五〕的否定式，意为：“不需要，用不着”。
- 7 “のにも”“の”是形式体言，“に”是其后动词“役に立つ”要求的补语，“も”是提示助词。

词 汇

- 1 貝塚（かいづか）〔名〕贝冢（古代垃圾堆）
- 2 掘る（ほる）〔他五〕挖，掘
- 3 白っぽい（しろっぽい）〔形〕发白的
- 4 貝殻（かいがら）〔名〕贝壳
- 5 道具（どうぐ）〔名〕器具，工具
- 6 大昔（おおむかし）〔名〕远古，古代

- 7 見付ける（みつける）〔他下一〕找出，发现
- 8 だから〔接〕因此，所以。“ですから”是其敬体
- 9 詳しい（くわしい）〔形〕详细的
- 10 暮らし（くらし）〔名〕生活
- 11 ごみ捨て場（ごみすてば）〔名〕垃圾堆（场）
- 12 野山（のやま）〔名〕山野
- 13 駆け回る（かけまわる）〔自五〕到处奔跑，奔波
- 14 殺す（ころす）〔他五〕杀
- 15 ことに（殊に）〔副〕特别，尤其
- 16 都合（つごう）〔名〕方便；合适
- 17 捨てる（すてる）〔他下一〕抛弃，扔掉
- 18 壊れる（こわれる）〔自下一〕坏，（破）碎
- 19 いる（要る）〔自五〕要，需要
- 20 食べ残す（たべのこす）〔他五〕吃剩下
- 21 果物（くだもの）〔名〕水果
- 22 種（たね）〔名〕种籽；果核
- 23 腐る（くさる）〔自五〕腐烂
- 24 残る（のこる）〔自五〕留下，剩下
- 25 つまく〔副〕就是说，总之
- 26 ずっと〔副〕…得多，很。ずっと昔 很早，很古
- 27 奥（おく）〔名〕内部；深处

4. 年中行事と信仰

じゅういちがつじゅうごにち しちごさん
十一月十五日は、七五三です。七五三というのは²，子供
が七歳・五歳・三歳になったのを祝う日です。それで、その年
の子供のいる家では、子供を連れて、神社へお参りに行きます。
子供たちは、この日のために作ってもらった着物をきて、
うれしそうで³ す。親は子供がこの年まで無事に成長したこ
とを神に感謝し、また、これからも、健康でよい子になるよう
にと願うのです。⁴ 子供たちは、「千歳あめ⁵」という菓子を
買ってもらいます。この菓子は、千年も生きるようにという願
いを表わすものです。

七五三は中国から伝わったもので、昔は貴族や武士の間で
行なわれていました。それが江戸時代の中ごろから、広く一般
の人にも行なわれるようになりました。女の子は三歳と七
歳、男の子は五歳の時祝うのが普通ですが、地方によっ
ては、違うこともあります。ともかく、子供が成長していくこと
を祝うのです。

日本には、七五三のような風習がたくさんあります。正月
の行事、節分⁶，ひな祭り⁷，彼岸⁸，端午の節句⁹，御
盆¹⁰ などです。また、クリスマス¹¹ も近ごろは、日本ふうな行
事になりました。このほか、農村では田植え祭りとか、新穀
感謝の祭り¹² などがあり、町では初午¹³，恵比須講¹⁴ など商
売がうまくゆくようにという商人たちの祭りがあります。ま
た、各地の神社には季節ごと¹⁵ の祭りがあって、全く一年じ
ゅう¹⁶ 休む暇もないほどです。